

1. 公開シンポジウム開催！

「大学の資源を地域の教育に活かす～大学博物館の目指すもの～」

すでにみなさまご存じかと思いますが、本年4月に香川大学博物館が開設されました。現在、来年度の開館を目指して、教育学部1号館1階の該当スペースの改装工事が進められています。

この度、当センターでは、大学博物館の第2回学外特別展「かがわの里山～その自然、風土、歴史 香川大学による研究の軌跡」(2008年1月22日～27日、ヨンデンプラザ高松1Fギャラリー)とあわせて、標記シンポジウムを開催することとなりました。学内教職員のみなさまの積極的な参加をお待ちしております。

なお、本シンポジウムは公開で行われるものですが、大学開発教育センターより全学のFD研修会の一環としても認められております。参加ご希望の方は、お手数ですが事前にセンター事務室までご連絡下さい。(内線1273、syogse@ao.kagawa-u.ac.jp)

2008年1月24日(木) 13:30～16:00 高松市生涯学習センターまなびCAN多目的ホール

第Ⅰ部: 基調講演(13:30～14:30)

「資料からはじまる、知的探検の楽しみ」

(林 良博・東京大学総合研究博物館長)

第Ⅱ部: シンポジウム(14:30～16:00)

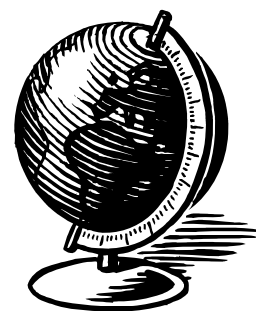
「地域博物館の実態と大学博物館への期待」

(田井静明・香川県歴史博物館主任専門職員)

「香川大学博物館の現状と課題」(丹羽佑一・大学博物館長)

「生涯学習の拠点としての香川大学」(清國祐二・生涯学習教育研究センター長)

総合司会: 山本珠美・生涯学習教育研究センター准教授



2. 平成20年度公開講座の募集を開始しています

すでにメール等でお伝えしております通り、12月3日より来年度の公開講座の募集が始まっております。開講ご希望の方は、平成20年1月18日(金)までに、配布いたしました計画書をセンター事務室までご提出下さい。

なお、この度「平成20年度公開講座実施要領」に一部変更がありました。現在、細部について調整中ですので、まとめ次第、みなさまにメール等にてお送りいたします。ご確認の後、奮ってお申し込み下さい。



申込先: センター事務室

内線1273 syogse@ao.kagawa-u.ac.jp

問合せ先: センター長 清國祐二

内線1272 kiyokuni@cc.kagawa-u.ac.jp

3.『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告第13号』投稿募集

当センターでは毎年度『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を発行しております。生涯学習を研究する本学教員、センターが主催する講座等を担当した本学教員、また、センターが主催する講座等を担当した学外講師で編集委員会が認めた者であれば、どなたでも投稿することができます。

すでにメールでお伝えしております通り、投稿ご希望の方は、所属、氏名、論文仮タイトルを平成19年12月25日(火)までにセンター事務局または下記担当教員までご連絡下さい。

原稿締切は平成20年2月1日(金)です。多くの方のご投稿をお待ちしております。

(なお、投稿要領の改定により、原稿の電子化を行い、センターHPに順次公開されます。)

📍 申込先: センター事務局 内線1273 syogse@ao.kagawa-u.ac.jp
📍 問合せ先: センター専任教員 山本珠美 内線1271 yamamoto@cc.kagawa-u.ac.jp

<2006年度第12号掲載論文>

生涯学習の推進を図るための参加型学習の方法論(2)	清國祐二
長期移動型キャンプの教育効果に関する一考察～学生リーダーへの事前事後調査の比較から～	清國祐二
市民参加型舞台芸術に関する序論的考察	山本珠美

4. 参加型学習への誘い～センター担当教員の研究・実践紹介(4)～

過去のニューズレターで参加型学習の代表的な手法となる「ラベルワーク」と「ランキング」を紹介し、その特徴を述べました。今回は、それらを通して学習者に気づいてもらいたい学習のダイナミズムについて簡潔に説明します。

これまで取り上げたふたつの手法には、教育・学習の基本要素である「自己教育・学習」と「相互教育・学習」の両側面が意図的に位置づけられてます。とはいえ、学習の基本は個人学習になります。まずは自らに学ぶ力が備わっていないと学習は発展しません。一方、個人学習の促進や活性化にはさまざまな経験や価値観をぶつけ合う相互学習が有効です。両者がうまく絡み合ってスパイラル状に高まっていけば、人間の弛まぬ成長に必要な学習能力の獲得もできるのだろうと考えます。

その意味で、参加型学習といえども、個人学習(自分の頭を理性的に整理する時間)と相互学習(他者との知的交流によって従来の思考を再構成する時間)の効果的な組み合わせに配慮する必要があります。加えて、学習者が相互に振り返りを行うことも重要です。必ずしも参加した学習者が同じレベルで参加型学習の効果や意義を認識できているわけではありません。自分の心の動きや変容のプロセスを自覚化させる作業(振り返り)を組み込むことによって、さらに相互に学び合うことができます。

これら一連のプロセスは、ある程度まとまった学習時間を必要とします。大学の授業のような1コマ90分という制約の中では困難な部分はありますが、よりよい学習者を育てるために、来年度は専門の授業の中で、学生向けの参加型学習の開発に取り組もうと考えています。(文責:清國祐二)



センター雑感

最近、縁あって元ラグビー日本代表でもあり、タレントでもある大八木淳史さんと懇意になりました。私たちの共通項は青少年育成で、交流が始まってから当センターにもすでに2回お越し下さいました。トップアスリートのセカンドキャリアや生き様に学ぶことも多く、何とか香川大学にお力添えをいただけるよう画策中です。楽しめる仕事ができることに感謝です。(清國)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp